

佳作

ゆるすことの大切さ

福岡県 福岡教育大学附属福岡小学校四年 後藤 杏

私はこの夏、「ゆるすことの大切さ、夢や笑顔、温かい心を持つことの良いこと」を学びました。

夏休みに、劇団四季ミュージカル『エルコスの祈り』を見に行きました。お話の舞台はユートピア学園。学園の先生は子どもたちの個性をみとめようとはしません。ロボットなのに温かい心を持ったエルコスが、夢や笑顔を忘れてしまった子どもたちの個性をみとめ、夢や笑顔を取りもどしてあげました。

「みんないいものを持っている」。エルコスが子どもたちの笑顔を取りもどすきっかけとなった言葉です。ありのままの自分をみとめてもらえると、自信を持つことができ、夢に向かって努力しようという気持ちが出てくるのだと思います。笑顔の子どもたちを見て、私もありのままの自分でいいんだと勇気をもらいました。

しかし、たった一人、ジョンという男の子がエルコスを信じることでできず事件をおこしてしまいました。ジョンは、エルコスのやり方が気に入らない先生たちとエルコスを消めつさせるといふ約束をしようのです。おせんされたエネルギーを飲んだエルコスは消めつてしまいました。もうすぐ自分が消えてしまうのに、エルコスはジョンや先生たちは「まちがっただけ」と言ってゆるしてあげました。ゆるされたことで、ジョンたちも心を開き自分たちのまちがいに気づくことができました。

「人間の心の中で一番大切なのは、ゆるすという気持ち」。エルコスがみんなに最後に伝えたメッセージです。人間だからまちがいを起こすことはあります。その時に、まちがいをひはんされると、新たな負の気持ちが起こると思います。けれども、まちがいをゆるしてもらうことで、人は深く反省し、お互いにとっていい感情が生まれると思います。いやなことをされた時も、おこることで本当のかい決はできません。ゆるしてあげること、お互いにとっていい関係をきずく方法を見つけることができると思います。そのことをエルコスが教えてくれました。ありのままの個性をみとめ合い、気持ちやすれち

がう時はゆるすことを大切にこれからはすごしていきたいと思います。